

平成 28 年 北児島地域包括ケアネットワークの反省と今後について

12月1日、運営委員会も早5回目を数え、これまでの振り返りと今後の目標を見据えた活動行うために、どうしていくべきか、グループワークを行い、運営委員の方々から、下記のとおり御意見をいただきました。

【この1年間を振り返って】

運営委員会について

- ・現在の形を継続していけばより良いものになっていくのではないかと行政も協力ができ良い会になっている。
- ・運営委員会で協議することは困難。理事会で決まったことを流してもらう形が良い
- ・委員の人数が多い。
 - 各職種1名ずつにする
 - 代表20名程度で運営企画委員を立ち上げる
 - コアメンバー制として意見交換できるようにする
- ・地域の代表の方(町内会長、愛育・民生委員など)を巻き込んでほしい

シンポジウムについて

- ・代表の施設だけではなく、ほかの施設の方の意見もコメンテーターとして参加できるようにしたほうが良いのではないかと
- ・地域の人に伝えられる場になったらいい。
- ・地域住民の方も集って、顔の見える関係ができ、連携をとる場として有効
- ・住民と専門職では内容を変えていくほうが良いのではないかと
- ・目的がややあいまい。何かを構築する目的を持って行う方が、住民の方も参加しやすくなると思う。

【シンポジウムのテーマ】

- ・認知症
- ・リハ職の活用について知ってもらう
- ・看取り
- ・ICT 関連
- ・生活支援の場所の提供
- ・口腔ケア
- ・倫理、QDD→弁護士、司法書士などにも参加していただき行ってみたいかどうか
- ・社会資源について
- ・現場で困ったケースについて、具体的に話し合う
- ・運営委員会参加の依頼時に希望するテーマのアンケート実施
- ・住民向け、専門職向けに分けて行ってみる

【今後の活動】

- ・在宅医療されている先生からの現場の話をきいてみたい。
- ・各職種がレベルアップできるような会へつながればよい
- ・町内役員には積極的に参加をすすめてほしい
- ・シンポジウムのアンケート集計の結果報告をして頂きたい。
- ・各地区の住民の方に集ってもらい、そこへ専門職が出向いて意見交換会を行い、次の回はそれを皆が持ち寄って全体会として意見発表すればどうか。